

# 平成30年度事業報告

## 1 事業の概要

平成30年度、阪神福祉事業団は①良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進、②将来的展望に立った法人経営及び施設機能の確立、③安定的経営の取り組み、④施設整備等の推進、⑤人材確保、育成への取り組み、⑥地域における公益的な取り組みを重点的課題として取り組んだ。

### (1) 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

施設等の福祉サービスについて、第三者評価機関による客観的な評価に基づきサービスの向上を図るため、平成30年度は、ななくさ厚生院、ななくさ清光園が福祉サービス第三者評価を受審した。今回の受審が事業団においては2巡目の受審となったが、前回の受審において明確となった諸課題に対しての改善や維持・管理状況を再度点検し、職員間で情報を共有する中、見直しを進めた。評価結果については、評価基準に対する達成率が厚生院で98.1%、清光園で98.5%と高評価を得た。

また、個別化、多様化する利用者に対して個別・専門的支援を推進し、その内容については各施設における1年間の実践のまとめを発表する「阪神福祉事業団実務・実践報告会」において7編の報告・発表があり、施設間で実践を共有する契機となるとともに、発表を行った若手職員の成長にも繋がった。

### (2) 将来的展望に立った法人経営及び施設機能の確立

ななくさ学園では、児童福祉法の改正及び6市1町地域の障がい児及び障がい者の福祉ニーズや将来的な経営見通し等に踏まえ、平成30年4月1日から障害児入所施設（定員40人）併設障害者支援施設（定員10人）に移行した。その中で、障がい児のショートステイや入所に係る様々なニーズに対応するとともに、成人利用者に提供する日中活動の内容を見直し、ミュージックケアを実施するなど充実を図った。ななくさ育成園では、移転地となる宝塚市や関係機関とも積極的に情報交換を行い、障がい者の地域生活支援や相談支援など育成園が果たすべき役割・機能について種々の検討を行った。更に、従来の中期経営計画を見直し、今後10年間の施設の改築及び大規模改修の計画を定めるとともに、利用者サービスの充実に向けた基本的方向性を定めた中期経営計画（第3訂）を策定し、平成30年11月の理事会で決定した。

### (3) 安定的経営の取り組み

法人、施設経営においては、各施設とも独立採算運営を基本とし、将来にわたって、自立した経営を推進していくため、稼働率の維持向上、各種加算の取得など収入の確保に努めた。その結果、平成29年度決算と比較して約70,000千円の増収となり、職員の処遇改善手当、夜勤手当等の改善や臨時職員の賃金改善に充当するとともに、育成園、厚生院の移転改築整備工事や施設の大規模改修等のために積極的な積み立てを実施した。また、事業団全施設で使用する電力調達の入札や節減努力により、水道光熱費は前年度決算対比で約6,000千円の削減となる等、効率的な執行や入札、見積もり合わせの徹底に

努めた。

(4) 施設整備等の推進

ななくさ育成園移転改築整備事業に関しては、平成30年6月に11者による入札を行い、平成31年9月完成の予定で工事に着手した。

その他の整備事業については、平成29年10月の大雨で破損した白寿荘西側水路取水ダムの法面復旧工事、白寿荘食堂外の空調機の更新、老朽化した大型洗濯機等の更新等を実施した。

(5) 人材確保、育成への取り組み

年々厳しさを増す人材確保等の諸情勢を勘案し、福祉国家資格の取得奨励、キャリアアップサポートを積極的に推進することにより職員のモチベーションアップに取り組み人材の定着を図った。また、就職ナビや就職説明会において、福祉系学生のみならず他学部学生等へのアプローチを行うとともに、福祉系大学等のキャリア担当者への訪問や学内就職説明会、ゼミ訪問等積極的な採用活動を展開した。その結果、平成30年度は年間を通じて74人の学生が施設見学会に参加、採用試験応募者は39人となり、採用辞退があったものの平成31年4月1日付けで23人の新規職員を採用した。これらにより平成31年度当初においては、欠員が生じることなく職員を確保することができた。また、採用後2～3年目の職員を中心とした「事業団の魅力発信チーム」の監修による職員採用パンフレットを作成し、若者目線で職員採用に関する企画・広報活動を展開することで、求職学生に加え、大学2、3年生など将来の福祉人材も含めて施設見学やインターンシップへと繋げた。

(6) 地域における公益的な取り組み

ななくさ白寿荘では10月に「ななくさ地域交流フェスタ」を開催し、ゲスト講演、事業団職員による認知症サポーター養成講座や生活支援技術講習会を実施するなど、地域の方を中心に241人の参加を頂いた。また、近隣関係機関、自治会等とも連携して、認知症カフェを定期的で開催するとともに、近隣の自治会等で認知症サポーター養成講座を開催する等地域福祉の向上に積極的に貢献した。また、それらの取り組みにより兵庫県より「地域サポート施設」の認定を受けた。

ななくさ育成園では、知的障がい者の支援をテーマに宝塚市で公開講座を開催し、福祉関係者、保護者等34人が参加する中で学習や情報交換を行った。

その他、兵庫県のトライやる・ウィークに協力し、西宮市立山口中学校の生徒8人を受け入れ、福祉の職場を体験して頂いた。

(7) その他

障がい者雇用の取り組み

地域で暮らす障がい者の就労による社会参加を積極的にサポートするため、平成30年度は3人の職業実習を受け入れた。実習においては、企業在籍型職場適応援助者を中心にアセスメント・評価を行い、また、地域の就労生活支援機関とも密に協力体制を構築する中で、新たに2人の障がい者を雇用した。これらの取り組みにより、本事業団の障がい者雇用は平成31年4月1日現在10人、障がい者雇用率は3.2%となり、事業者等に法で義務付けられている法定雇用率2.2%以上の雇用率を達成した。今後も共生社会の推

進を担う社会福祉法人の使命を果たすべく、障がいのある方が就労体験等にチャレンジできる機会を提供していくとともに、適切な職業生活の支援に努めていく。

## 2 各施設事業報告

各施設の主な事業について、次の通り実施した。

### (1) ななくさ学園（障害児入所施設併設障害者支援施設）

#### ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

##### (7) 知的障害児自活訓練事業の実施（継続）

地域で自立した生活を送るために、必要な基本的な生活習慣や技術の習得を目的に、自活訓練棟（敷地内単身住居）を活用して、高校3年生2人と2年生2人の計4人に①休日及び平日の日中利用②夜間利用③休日宿泊利用④宿泊から登校を含めた終日利用を段階的に実施するとともに、公共交通機関を使用するの自力外出や公共機関の利用方法等、社会性の向上の習得に向けて取り組んだ。対象者の内、高校3年生2人は就労自立（生活場面は、自宅1人とグループホーム1人）、他の高校3年生2人も就労自立と訓練施設への移行が実現した。

##### (8) 障害児等療育支援事業の実施（継続）

地域の障がい児を対象に各種療育プログラムによる地域療育支援事業として、在宅や他事業所、特別支援学校等で療育支援のノウハウの還元を図った。夏冬の長期休み期間中のサマースクール（夏休み期間中15回で228人が参加）、ウィンタースクール（冬休み期間中3回で56人が参加）では、プール利用の他にお菓子・うどん作り、食品や菓子工場見学、動物園や水族館等の社会見学、太鼓教室や音楽会等の音楽療法活動、体操教室やエアロビック運動等による各種療育活動を実施し、長期休み期間中の暮らしと余暇の支援に努めた。また、保護者向けの学習会（全7回開催で169人が参加）では、新たに特別支援学校高等部卒業後の暮らしを見据え、家庭以外の暮らしの場としてグループホームの見学や働く場としての工場見学を実施し、地域の障がい児や家族、関係機関への支援に努めた。

##### (9) 福祉サービス第三者評価受審後の支援内容等見直しの推進（継続）

平成29年度の評価結果を踏まえて、感染症マニュアルを改訂し感染症対策の充実を図った。また、地域移行を目指す利用者に向けて地域移行マニュアルを作成し、移行に向けての意思確認に活用した。

#### イ 将来的展望に立った法人経営及び施設機能の確立

##### 児者併設施設移行に伴う施設運営の推進（新規）

児者併設施設移行後の施設運営について、平成30年度に新たに設定した利用者定数をもとに利用者の受け入れを行う中、経営の安定化を図り、将来の整備に向けた必要な積立を行った。

また、児童と成人の双方の年齢層に沿った支援の提供に努め、成人支援については、日中の活動内容に利用者が楽しめる音楽（ミュージックケア）や運動（エアロバイク）、自立に向けた作業活動を個別に提供し充実を図った。また、今後の児童の入所ニーズと成人施設移行の見通しを検討する中で、平成31年度は児童定数35人、成人定数15

人に変更することとした。

#### ウ 施設整備等の推進

移転後の経年劣化・破損等に伴う各所の修繕及び備品の更新を設備計画に従って実施した。

利用者の生活環境の改善を図るため、居住部分で傷みの激しい2人部屋2室と1人部屋1室の畳の交換と、共用部分で破損がみられるデイルーム扉の修繕を行った。また、故障により使用不可能になった業務用全自動洗濯機を補正予算で対応する中で更新し、利用者の生活環境の維持に努めた。

#### エ 地域における公益的な取り組み

##### 退所児童に対するアフターケアの実施（継続）

社会的養護児童で家族との関係が希薄な対象者が卒園後の生活環境の変化に順応できるよう、定期的な連絡や職場・グループホームへの訪問、行事等への参加やボランティアとしての来園を勧め、7人の退所者の近況確認や相談に応じた。その内、2人の退所者から、仕事や給与、生活環境についての相談があり、事業所や相談支援事業所と連携し改善に努めた。また、家庭復帰後に経済的虐待の恐れが生じている退所者については、市の障害福祉課にも相談し、退所者の人権を守るための対応を行った。

#### (2) ななくさ厚生院（救護施設）

##### ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

##### 利用者の自立に向けた生活支援の充実（継続）

(7) 近年、増加傾向にある知的障がい者の受け入れに対応するために「受入対応マニュアル」を作成し、利用者が安心して施設の生活や訓練ができる体制を整備した。

(4) ななくさ厚生院にとって2回目となる、兵庫県福祉サービス第三者評価を受審した。

初回の平成27年度に指摘があった事項に対して、課題解決に向けた工夫や改善が進み、利用者サービスの質の向上が図られているとの評価を受けた。今後も更なる向上心をもって利用者支援の向上に努める。

##### イ 安定的経営の取り組み

##### 収入の確保と事業の達成確認（継続）

初日付入所者数の平均は、106.4人とほぼ予定通りの稼働率となった。

施設を退所した利用者が居宅で自立生活が送れるように支援する目的である、保護施設通所事業・通所訓練については、継続して施設に通えるよう働きかけを行うことで、通所者数の目標を大きく上回った。また、退所利用者が施設に訪れることは利用者にとって刺激であり、地域移行を目指す目標となり、各種訓練の充実に繋がった。

#### ウ 施設整備等の推進

##### 移転改築に向けた計画の推進（新規）

西宮市山口町から宝塚市東洋町といった市街地に移転することに伴い、新たに移転改築のコンセプトを整理するとともに、居室の配置等の各種検討を計画的に実施し、「ななくさ厚生院移転改築整備基本構想」として整理した。

#### エ 人材確保、育成への取り組み

##### 職員研修の充実（拡充）

研修計画に基づき、大学の社会福祉学部教授による対人援助技術等の研修を計画的に実施した。また、独自に定めた接遇チェックリストを活用し、研修の「振り返り」と「まとめ」を行うことで継続的な研修効果の定着に努めた。

ななくさ厚生院の施設利用者の特性を踏まえ、仁明会精神衛生研究所主催の統合失調症の理解とケア、気分障害の理解とケアをはじめとしたトピックス研修に定期的に職員を派遣し、資質の向上に努めた。

### (3) ななくさ育成園（障害者支援施設）

#### ア 安定的経営の取り組み

##### 安定的経営管理の確立（継続）

改築に必要な自己財源を確保するため、常に収支状況を把握・分析し、各種加算等は継続して取得できるよう条件整備を行った。重度障害者支援加算Ⅱについては、取得要件となる研修受講の経過措置が平成31年3月末をもって終了することから、その置き換えが可能となる行動援護従事者養成研修の出張講座を企画し、平成31年度の収入の減少に歯止めをかけた。また、平成31年10月に予定されている消費税引き上げ等を踏まえ、移転に向けた財政計画はもとより移転後の収支シュミレーションを実施した。

#### イ 施設整備等の推進

##### 移転改築工事の着工（継続）

平成29年度補正予算での補助金採択を受け、改築工事に取り掛かることができ、事務局・総務課とともにその作業を進めた。移転後の運営体制等については施設内に設置した作業部会（年31回実施）を中心に、全職員に移転に係る業務分担を行い、オール育成園で円滑な移転に向けた準備を行った。

#### ウ 人材確保、育成への取り組み

##### 障がい者支援の魅力、やりがいの発信（継続）

「人づくり」の視点を施設運営の柱の一つとして位置付け、職員の各種研修への積極的な派遣とともに、一部職員においては実践発表会や相談支援従事者・サービス管理責任者研修、強度行動障害支援者養成研修等で発表者や講師の役割を担い、伝えるスキルの向上も図った。また、他法人の施設との合同勉強会の実施や「国立のぞみの園」をはじめ専門機関と連携し、ネットワークの構築はもとより、職員のスキルアップを図った。

#### エ 地域における公益的な取り組み

##### (7) 第3回公開講座の実施（継続）

地域住民への啓発活動として移転予定地である宝塚市において「第3回公開講座」（テーマ：地域の社会資源として障害者支援施設に求められること）を実施し、総勢34名の参加を得た。

##### (1) 昆虫採集体験教室等の実施（継続）

自然豊かな現環境を活用し、学校の夏休み中に昆虫採集体験教室を実施した。地域小学生とその家族を主として31名の参加を得た。また利用者の日中活動で作成したバスフィズ（入浴剤）やアクセサリ等を、近隣喫茶店や県庁内で他法人の施設が運営するアンテナショップで常設販売したほか、地域や学校のお祭りで5回の展示即売を行った。

(4) ななくさ白寿荘（特別養護老人ホーム）

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

認知症利用者への専門的支援の推進（拡充）

高い専門性を有する施設づくりを目指し、外部講師によるバリデーション研修を白寿荘全職員を対象に実施した。また、バリデーションワーカーの育成にも努め、各フロアに1人ずつ、合計3人配置できるように準備を進めた。さらに認知症介護実践研修（実践者研修6人、実践リーダー研修3人）にも参加し、職員のスキルアップを図るとともに認知症高齢者への専門的支援を推進した。

イ 安定的経営の取り組み

安定的な稼働率の維持と各種加算の取得（継続）

平成30年度の報酬改定以後、全国の特養の3割以上が赤字という状況となっている。

こういった状況の中、白寿荘においては毎月、管理職・相談員・ケアマネジャー・事務担当者による経営改善検討会を開催し、収支改善に向けて稼働率や平均介護度の把握をする等の種々の検討を行い、いぶき棟大規模改修工事に向けて計画的な積立を行った。

稼働率に関しては、月平均10%前後の入院者があり、安定した稼働率の維持が困難であったが、ショートステイの稼働率を上げることで全体的な稼働率向上に努めた。また、夜勤職員配置加算Ⅲ、機能訓練体制加算（短期）の新規取得を行い経営の安定を図るとともに、新たに認知症専門ケア加算の取得に向けて計画的な専門研修の受講を進めた。

ウ 施設整備等の推進

(7) いぶき棟（特別介護棟）の整備に向けた検討（新規）

集中管理方式の空調設備から、故障時に対応しやすい個別空調方式への変更や利用者が快適に過ごせる居住スペースの確保、玄関の移設による利便性の向上など、改修案についての具体的な検討を行った。また工期が長期間になることに加え、定数を維持した中での工事となることから、より利用者の安全に配慮する必要があり、職員の体制などソフト面での検討も行った。

(i) つどい棟（一般介護棟）食堂及び事務所兼相談支援室の空調機（エアコン）の更新

故障が頻発し利用者の生活環境に支障をきたしていたつどい棟食堂のエアコンについては、年次計画に基づき更新を行なった。室外機の異常により使用できない状態であった事務所兼相談支援室のエアコンについても更新を行なった。

(ii) つどい棟（一般介護棟）大型洗濯機・乾燥機の更新

経年劣化により、故障が多発していた大型洗濯機、乾燥機についても年次計画に基づき更新を行なった。

(i) つどい棟（一般介護棟）利用者・家族の面会スペースの設置について（新規）

倉庫を用途変更し、面会スペースを設置したことにより、利用者と家族がゆっくり過ごせるスペースの確保と契約手続きなどの相談業務に使用できるようになった。

エ 地域における公益的な取り組み

施設機能の提供（拡充）

地域における福祉の拠点として役割を発揮していくことを目的に地域自治会や関係機

関とのネットワークづくりに努め、地域のニーズを把握する中で、ななくさ白寿荘が提供できる機能やノウハウを積極的に提供してきた。

また、認知症高齢者やその家族が、地域で安心して暮らせるための組織づくりのひとつとして平成28年度から自治会や行政などの関係機関と共同して準備を進めてきた「認知症カフェ」（にこにこ丸山カフェ）については、平成30年12月13日にオープンすることができた。

さらに地域貢献活動として、「認知症サポーター養成講座」や「認知症予防体操」の開催、在宅利用者の通院支援を実施するなどの取り組みにより、兵庫県知事から「地域サポート施設」の認定を受けた。

#### (5) ななくさ新生園（障害者支援施設）

##### ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

##### (7) 重度重複障がい者の健康管理と医療的ケアの充実（継続）

健康管理に関する知識・技術の向上及び利用者の健康状態に応じた適切な支援が行えるよう医務研修を年間4回実施した。特に今年度は「感染症対策」に重点をおき、インフルエンザ、ノロウイルスと各感染症ごとに研修を行い、職員一人ひとりが基本的な知識の習得を図った。

また、理学療法士と連携した機能訓練を年間48回、支援員が実施する生活リハビリを年間276回実施し、利用者の心身機能の維持による健康維持に努めた。

##### (4) 日中活動の充実と利用者支援サービスの向上（継続）

1階さくら寮では、身体機能低下の防止、情緒の安定を図ることを目的として、歩行・創作活動・音楽といった活動に取り組んだ。特にリハビリについては遊びリテーションの観点から利用者楽しさの提供とリハビリ効果の向上をねらいとし成果を上げている。一方、2階ひまわり寮では、自閉的傾向のある利用者に対する作業活動の整理を行い、診療所作業室の利用を工夫し活動効果の向上を図った。活動環境の構造化は、新生園内の活動だけでなく、地域サービスである障害児等療育支援事業の強化にも繋がっている。

また、利用者の気分転換、社会活動を目的とした外出レクリエーションや園内レクリエーションは、各個人のニーズを整理して実施計画を作成し、年間延べ294日（各寮の全体レク含む）実施した。

##### (6) 相談支援事業の充実（継続）

西宮市北部地域の相談支援態勢強化のため、西宮市生活支援課、山口・塩瀬地区の各保健福祉センター及び各包括支援センター、障がい者就労支援センターアイビー、西宮市権利擁護センターに参加を呼びかけ「北部地域相談支援ネットワーク会議」を年間2回実施し、地域のネットワークシステムの構築に努めた。また、計画相談部門では相談対象者や家族との良好な関係を維持することで、基幹相談部門における基本相談の強化に繋がり、昨年度と比較すると相談件数は3.5%増となっている。

##### (5) 障害児等療育支援事業の充実（拡充）

西宮市北部地域の療育支援の充実のため、西宮市地域自立支援協議会の「ほくぶ会」と連携して、障がいのある方やその家族に対し、音楽療法、障がい者スポーツ活動を

継続実施した。

また、ペアレントトレーニングは年間2回実施し、当事者家族に対し学びの場を提供してきた。実施回数は年間延べ358件となり、地域の福祉サービスの一部として浸透している。

(オ) 福祉サービス第三者評価の受審結果を踏まえた取り組みの推進（継続）

施設におけるリスクマネジメントに関しては、ヒヤリハット報告から、予知できる事故を想定し、未然に防ぐ予防策の検討を行った。また、随時、事故防止委員会を開催し、事故後の対応を検討するとともに、その後検証を行い、事故の再発防止に努めた。

マニュアル整備の面では支援グループの生活係、活動係、保健係を中心に「標準的な実施方法」の観点から内容の確認、見直しを行った。

イ 安定的経営の取り組み

収入の確保と支出削減に向けた意識改革の取り組み（継続）

入退所状況に関しては、利用者の重度化・高齢化に伴い医療的な面で介護保険施設等へ移行したケースが2人あった。一方、入所は地域から1人、短期入所を長期で利用している方から1人あり、予算の目標数である52人の利用者の確保を継続した。今後も相談支援事業と連携を図り、利用者ニーズに応え、利用者の確保に努めていく。

ウ 施設設備等の推進

老朽化した施設設備の改修等（新規）

利用者の加齢に伴う重度化や設備の経年劣化に伴い、利用者のベッドについて平成30年度から3カ年計画で6台を3モーター昇降ベッドに更新することとしている。平成30年度については2台のベッドを更新した。

また、老朽化した2階支援員室の空調設備の更新工事を実施した。

エ 人材確保、育成への取り組み

職員のスキルアップの推進（継続）

新任職員に関しては、事業団新任職員指導制度に基づき、計画的に研修を進めた。その他職員はスキルアップを推進するために、育成面談等人事考課制度と連携し個別メニューの整備を行った。

(6) ななくさ清光園（障害者支援施設）

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

(7) 兵庫県福祉サービス第三者評価の受審（継続）

3年前に初めて受審して以降、サービス内容を見直し改善してきた。その結果を毎年サービス自己評価という形で検証し、PDCAサイクルに従って取り組み、今回2回目の受審を受けた結果、高い評価を受けている。

(イ) 音楽を通じた余暇活動の提供（拡充）

音楽療法士による週1回のグループセッションを行うことによって音楽の楽しさを体験したり、様々な生活の場面においても身近に音楽が流れている環境を提供することにより落ち着いた潤いのある生活環境を提供した。更に年度末には利用者による楽器演奏を家族に披露し、喜んで頂いた。



(6) より良い意思決定支援に関する調査・研究（継続）

意思決定支援に関する園内研修の実施や、日々の支援現場及び個別支援計画の立案時における意思決定の場面抽出、先進的に取り組んでいる事業所への訪問等を行い、意思決定プロセス作りへ向けて取り組んだ。

イ 安定的経営の取り組み

収入の維持、拡大に対する取り組み（継続）

報酬改定を踏まえ、加算に必要な研修を受講し、相談支援部門において特定事業所加算を取得した。また経過措置の終了する重度障害者支援加算Ⅱについては、「行動援護従事者養成研修」の出張講座を事業団で企画し、加算要件を満たす職員の確保に努めるとともに、業務時間の見直しを行う中で減収対策に努めた。

(7) 阪神福祉センター診療所

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

(7) 健康管理の充実（継続）

利用者の加齢に伴い、嚥下障害や骨粗鬆症など日常生活におけるリスクが増加傾向にあるため、定期健康診断の結果を活用し、データ数値が悪い項目については再検査等により疾病の予防・早期発見・早期治療・慢性疾患の継続治療に努め健康管理の向上に努めた。

(1) 学園、清光園利用者の歯科ケアの充実（継続）

学園、清光園に各1名ずつ歯科衛生士が訪問し、利用者に対し、スケーリングや歯磨き指導を行った。学園に40回訪問し、延べ119人に実施、清光園には46回訪問し、延べ173人に実施し、利用者の口腔衛生の向上に努めた。

(6) 他職種協働によるチームケアの推進（継続）

診療所と施設の医療職が連携・協力・理解をより深めながら、利用者の健康管理について必要に応じてケースカンファレンスの実施や医療相談により、治療方針等を相互理解することでチームケアを推進し、医療的ケアの向上に努め、それぞれの職種としてのスキルアップにも繋がった。また薬剤師と情報を共有することで、施設利用者や施設看護師への調剤指導や情報提供の充実を図ることができた。

イ 安定的経営の取り組み

(7) 後発医薬品使用体制加算の継続取得（継続）

後発医薬品使用体制加算を継続して取得する体制を整えた結果、ジェネリック薬品使用率の年間平均は約85%となり、患者の自己負担を軽減し、また医療費の効率化に繋げることもできた。後発医薬品の使用は、社会的にも期待されていることから、継続して使用を推進することとする。

(1) 近隣他施設及び一般外来患者の積極的な受け入れ（継続）

地域に密着した医療機関として、一般外来患者を積極的に受け入れ、内科、精神科、歯科の全科で延べ1,234人の受診を受け入れたほか、肺炎球菌ワクチンや、インフルエンザワクチン接種にも対応した。また歯科についても、近隣施設の利用者を受け入れている。

(ウ) 育成園・厚生院の移転改築後の診療所運営についての検討(継続)

育成園移転後の通院体制等の検討など、安定的な収入の確保に向けての検討を行い、経営の安定化に努めた。

ウ 施設整備等の推進

自動分割分包機等の購入(新規)

薬局で使用する老朽化した自動分割分包機を更新し、調剤業務を安定させた。また、歯科において舌圧測定器を購入し、患者の口腔機能を評価した。口腔機能の低下した利用者には、歯科医師・歯科衛生士が施設を訪問して継続的に療養上の管理を行うことで、利用者の口腔衛生の向上と口腔機能管理加算の取得を図った。

(8) 給食センター

ア 良質かつ安心・安全なサービスの提供の推進

栄養・食事サービスを通じた支援内容の充実(拡充)

(7) 各施設の給食担当職員が一同に会する給食検討委員会を年3回、さらに施設別給食担当者会を毎月実施し、施設利用者の特性に応じたきめ細やかな栄養相談を実施した。

さらに白寿荘においては栄養ケアマネジメント会議を開催し、診療所医師との相談・調整により利用者個々の健康状態に応じた治療食の提供や食事摂取量等の見直しを適宜実施した。また、利用者の咀嚼・嚥下機能の低下に伴う嚥下困難食など多種多様なメニューを提供した。

(4) 利用者の地域移行や社会復帰へむけての訓練場所として施設と連携しながら厨房実習を実施した。新生園利用者1人、厚生院利用者4人、の厨房実習を行いながら給食従事者と関わりを深め、食品衛生の理解や厨房業務の習得を支援した。また、厚生院の居宅生活訓練事業においては、2人の利用者に対して栄養管理、調理技術等の指導を行った。

障がい者の雇用においては平成30年度も1人の新規雇用を行い、本事業団の企業が籍型職場適応援助者と給食センター職員が連携を図りながら3人の障がいの方がやりがいを持って就労できる環境作りに努めた。

イ 安定的経営の取り組み

効率的業務の推進(継続)

給食費の執行においては食材の価格高騰が相次ぐ中、献立の工夫や食材の精査、また徹底した比較見積もりによる食材購入等の結果、厚生院、育成園、白寿荘、新生園の全4施設における総給食費は最終的に94.7%の予算執行となった。また給食サービスに係る水道光熱等のランニングコストの抑制に向け、エネルギー消費コストを加味した上で設備及び調理機器の使用方法を周知徹底するとともに、作業の簡素化による効率的な業務の推進を図った。

ウ 施設整備等の推進

厨房機器等の購入(新規)

複雑化する調理作業の効率化を実践していく為、プラストチラーの購入を行い、安全な食材保管・調理作業の改善に努めた。また利用者の高齢化に伴い、刻み加工・ミキシ

ング加工処理等の需要が増加してきており、業務用フードプロセッサ、ジューサーミキサー等を購入し対応した。

エ 人材確保、育成への取り組み

職員の育成及び専門性の向上（継続）

職員の資質向上を図るため、センター研修はもとより、栄養管理や衛生管理に関する専門研修に参加し、栄養ケアマネジメント技術の向上、安全な食事提供に向けた人材育成を実施した。また今年度も障害者職業生活相談員資格認定講習に1人が参加し、合計3人の資格保持者により障がい者雇用の推進に努めた。

オ 地域貢献に向けた取り組み

施設と連携した地域貢献（継続）

白寿荘が主催する地域交流フェスタにおいては、おにぎりなど240食の軽食を提供した。また山口町名来地区老人会では、家庭で簡単に作れる介護食料理と題した料理教室を開催し、22人の参加者があり好評を得た。

以 上

### 3 平成30年度事業報告の付属明細書

平成30年度事業報告については事業報告に記載のとおりであり、「社会福祉法施行規則」第2条の25第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

#### 4 理事会・評議員会の決議案件等

##### (1) 理事会決議案件等

理事会で決議した案件及び協議事項は次のとおりである。

議決年月日	審査の方法	議案の番号	議 案 名
H30. 5. 24	第118回理事会	報告事項 議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号	理事長及び常務理事の職務執行状況報告（平成29年度下半期） 平成29年度事業報告及び決算の承認について 経理規則の一部改正について 職員給与規則の一部改正について 嘱託職員就業規則の一部改正について 平成30年度補正予算（第1号）について 評議員選任候補者の推薦について 定時評議員会の開催について
H30. 6. 7	H30年度第1回 みなし決議	議案第1号  議案第2号	第32回評議員会（定時評議員会）における議題の追加について （「議案第2号 役員（理事）の選任について」を追加） 役員（理事）の選任について （掛田理事の選任）
H30. 6. 18	H30年度第2回 みなし決議	議案第1号	副理事長の選定について
H30. 6. 26	H30年度第3回 みなし決議	議案第1号	工事請負契約の締結について （ななくさ育成園移転改築整備工事）
H30. 10. 4	H30年度第4回 みなし決議	議案第1号	備品購入契約の締結について （ななくさ育成園厨房機器購入）
H30. 11. 8	第119回理事会	報告事項 議案第1号 議案第2号 議案第3号	理事長及び常務理事の職務執行状況報告（平成30年度上半期） 職員退職手当支給規程の一部改正について 平成30年度阪神福祉事業団補正予算（第2号）について 中期経営計画（第3訂）の承認について
H31. 2. 18	第120回理事会	議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号	定款の一部変更について 定款施行細則の一部改正について 職員給与規則の一部改正について 平成30年度補正予算（第3号）について 平成31年度事業計画及び収入支出予算について 役員（理事）の選任について 評議員会の開催について
H31. 3. 26	H30年度第5回 みなし決議	議案第1号	施設長等の選任について （阪神福祉事業団事務局長、阪神福祉センター所長、ななくさ新生園長、ななくさ白寿荘長の選任）

H31. 3. 27	H30年度第6回 みなし決議	議案第1号	役員（理事）の選任について （田村理事の選任）
------------	-------------------	-------	----------------------------

(2) 評議員会決議案件等

評議員会で決議した案件及び協議事項は次のとおりである。

議決年月日	審査の方法	議案の番号	議 案 名
H30. 6. 15	第32回評議員会 (定時評議員会)	報告第1号 議案第1号 議案第2号	平成29年度事業報告について 平成29年度決算の承認について 役員（理事）の選任について
H31. 3. 4	第33回評議員会	議案第1号 議案第2号	定款の一部変更について 役員（理事）の選任について
H31. 3. 29	H30年度第1回 みなし決議	議案第1号	役員（理事）の選任について （田村理事の選任）

(3) 監事監査の状況

平成30年5月14日、15日に平成29年度の本事業団の業務の執行状況及び収入支出決算等についての監査が、川本、加藤監事によって行われた。

5 職員の任免及び職員数の状況

(1) 施設別・職種別職員数一覧表について

平成31年3月31日

区 分		課長等	課長補佐等	係長	事務員	支保 援士 育士	看護師	栄養士	技術職員等	合計
事務局	予算	正規	2	-	-	-	-	-	-	2
	定数	嘱託	-	-	-	-	-	-	1	1
	実配	正規	2	-	-	-	-	-	-	2
	置数	嘱託	-	-	-	-	-	-	1	1
学園	予算	正規	1	-	2	1	18	1	0.2	23.2
	定数	嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配	正規	1	-	2	1	17	1	0.2	22.2
	置数	嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-
厚生院	予算	正規	1	-	3	2	19	1	1	30
	定数	嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配	正規	1	-	3	2	19	1	1	30
	置数	嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-
育成園	予算	正規	1	-	4	3	47	1	1.8	60.8
	定数	嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配	正規	1	-	4	3	46	1	1.8	59.8
	置数	嘱託	-	-	-	-	-	-	1	1
白寿荘	予算	正規	1	-	5	2	60	6	1	79
	定数	嘱託	-	-	-	-	-	-	1	1
	実配	正規	1	-	5	2	62	6	1	81
	置数	嘱託	-	-	-	-	1	-	1	2
新生園	予算	正規	1	-	3	1	26	1	1	36
	定数	嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配	正規	1	-	3	1	25	1	1	35
	置数	嘱託	-	-	-	-	1	-	-	1
診療所	予算	正規	1	-	-	2	-	3	-	2
	定数	嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配	正規	1	-	-	2	-	2	-	2
	置数	嘱託	-	-	-	-	-	1	-	1
清光園	予算	正規	1	-	2	2	26	1	1	33
	定数	嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-
	実配	正規	1	-	2	2	28	1	1	35
	置数	嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	予算	正規	9	-	19	13	196	14	6	15
	定数	嘱託	-	-	-	-	-	-	-	2
	正規・嘱託計		9	-	19	13	196	14	6	17
	実配	正規	9	-	19	13	197	13	6	15
	置数	嘱託	-	-	-	-	2	1	-	3
正規・嘱託計		9	-	19	13	199	14	6	18	

(2) 職員数の推移について

平成31年4月1日

	平成30年4月1日現在職員数	中途退職	中途採用	平成31年3月末	3月末退職	平成31年4月採用	平成31年度4月現在職員数
正規	275	△ 5	2	272	△ 12	23	283
嘱託	6			6			6
合計	281	△ 5	2	278	△ 12	23	289

6 施設別各月初日現在在籍者（児）数一覧表

施設名	定員	30年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	合計
ななくさ学園	人 50	人 49	人 48	人 48	人 48	人 48	人 48	人 48	人 48	人 48	人 49	人 49	人 49	人 580
ななくさ厚生院	100	107	108	105	106	106	107	108	107	105	105	105	107	1,276
ななくさ育成園	140	131	131	131	130	129	129	128	128	128	128	127	127	1,547
ななくさ白寿荘	165	165	165	168	167	166	164	167	162	163	167	163	160	1,977
ななくさ新生園	50	52	52	52	52	52	52	52	52	51	51	51	52	621
ななくさ清光園	60	61	61	61	61	61	61	61	60	60	60	61	61	729
小計	565	565	565	565	564	562	561	564	557	555	560	556	556	6,730



## 7 施設別入所者数の状況

単位：人

施設	学園	厚生院	育成園	白寿荘	新生園	清光園	合計
定数	50	100	140	165	50	60	565
月平均利用者数	48.3	106.3	128.9	164.8	51.8	60.8	560.9
利用率	96.6%	106.3%	92.1%	99.9%	103.6%	101.3%	99.3%

※ 月平均利用者数は、契約及び措置の平均人数。

## 8 在宅福祉サービスの実施状況

### (1) 短期入所事業等

施設名	事業	年間延べ利用日数等
ななくさ学園	短期入所事業	533日
	日中一時支援事業	529人
ななくさ厚生院	一時入所事業	200日
ななくさ育成園	短期入所事業	19日
ななくさ白寿荘	短期入所事業	4,683日
	通所介護事業（デイサービス）	2,266人
ななくさ新生園	短期入所事業	634日
	日中一時支援事業	43人
ななくさ清光園	短期入所事業	1,751日
	日中一時支援事業	583人

### (2) 相談支援事業

ア ななくさ清光園 委託相談支援事業（事業地域：尼崎市）

イ ななくさ清光園 指定特定相談支援事業、指定障害児相談支援事業

（事業地域：尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、その他）

事業	区分	年間延べ件数
相談支援事業 (備考1)	訪問	277件
	外来	132件
	電話・メール等	7,192件
計		7,601件

※サービス調整会議・ケースカンファレンス等 139件

備考1：相談支援事業の主な内容

- ①自閉症・発達障がいや問題行動に対する生活支援、療育活動への導入支援
- ②福祉サービスの利用、本人及び家族の不安解消・情緒安定に関する支援

- ③触法行為のケースや課題を抱えた家族等への支援他、地域生活全般に関する支援  
(健康、医療、権利擁護等)

ウ ななくさ新生園 (事業地域：西宮市)

事業	区分	年間延べ件数
相談支援事業 (備考2)	訪問	896件
	外来	172件
	電話・メール等	3,488件
計		4,556件

※サービス調整会議・ケースカンファレンス等212件

備考2：相談支援事業の主な内容

- ①福祉サービスの利用等に関する支援、社会参加、就労等に関する支援
- ②本人、家族の不安の解消・情緒安定に関する支援
- ③その他地域生活全般に関する相談(健康面、医療面等)

(3) 障害児等療育支援事業

ア ななくさ学園

事業	区分	年間延べ件数
障害児等療育支援事業 (備考3)	在宅支援訪問療育等指導事業	283件
	在宅支援外来療育等指導事業	329件
	施設支援一般指導事業	147件
計		759件

備考3：障害児等療育支援事業の主な内容

- ①自閉症・発達障がいや問題行動への療育指導、療育セッション及び家族・施設支援
- ②音楽療法、夏休み、冬休みの障がい児等の活動支援(サマースクール・ウインタースクールの開催)
- ③保護者向け学習会(年7回実施)の開催(保護者等延べ169人が参加)

イ ななくさ新生園

事業	区分	年間延べ件数
障害児等療育支援事業 (備考4)	在宅支援訪問療育等指導事業	198件
	在宅支援外来療育等指導事業	138件
	施設支援一般指導事業	22件
計		358件

備考4：障害児等療育支援事業の主な内容

- ①自閉症・発達障がいや問題行動への療育指導、療育セッション及び家族・施設支援
- ②音楽療法による集団療育活動(阪神福祉センターと近隣地域の2箇所で実施)

## 9 苦情解決の状況

阪神福祉事業団では、社会福祉法人阪神福祉事業団苦情解決事業実施要綱に基づき、各施設施設長を苦情解決責任者に、各施設副施設長を苦情受付担当者にそれぞれ任命し、また苦情解決の客観性、中立性を確保するために、阪神6市1町の民生児童委員7人の方を、第三者委員として委嘱している。また第三者委員に対して、半年に1回苦情解決事業の状況報告を行った。なお、平成30年3月1日以降の苦情解決事業の状況は次のとおりである。

### (1) 阪神福祉事業団各施設の苦情受け付け状況

期間 平成30年3月1日から平成31年2月12日まで

施設名	苦情の件数				合計
	職員の待遇等	利用者処遇	利用者生活環境	その他	
学 園					
厚生院					
育成園					
白寿荘					
新生園					
清光園	1				1
合 計	1				1

※上記の件数は、様々な要望、苦情等の中で苦情解決事業として受け付けた件数

※主な苦情の内容

①職員の待遇内容に関すること

### (2) 第三者委員の活動

	実施年月日	内 容	参加人数
第三者委員 報告会	平成30年 9月21日	平成29年度事業報告について 苦情解決の状況報告と意見交換	第三者委員 5人
第三者委員 報告会	平成31年 2月25日	平成31年度事業計画について 苦情解決の状況報告と意見交換	第三者委員 6人

### (3) 第三者委員名簿（阪神福祉事業団共通）

平成31年3月31日現在

市 町	役 職 名	氏 名
尼崎市	民生児童委員協議会連合会副会長	池田 康昭
西宮市	民生委員・児童委員会理事	本田 三延
芦屋市	民生児童委員協議会副会長	東郷 明子
伊丹市	民生委員児童委員連合会副会長	小林 育子
宝塚市	民生委員・児童委員連合会常任理事	神谷 宏
川西市	民生委員児童委員協議会連合会理事	尾野上一夫
猪名川町	民生委員児童委員協議会会長	村山 興治

## 10 研修状況

### センター研修

研修名	参加人数	実施年月日
新任職員研修	22人	平成30年4月2日～6日
新任職員追研修	21	8月24日
内定者研修	19	10月25日
	18	12月7日
	21	平成31年2月15日
中堅職員研修Ⅱ	19	平成30年12月14日
障がい者雇用推進研修	24	9月28日
対人援助研修	19	12月4日
実務・実践発表大会	70	平成31年2月15日

### 派遣研修（全事協関係研修）※全施設

研修名	参加人数	実施年月日
第1回近畿ブロック定例会議	2	平成30年7月9日
第2回近畿ブロック定例会議	2	11月19日
指導者の育成に関する研修	3	平成31年1月29日
専門性を向上させる研修会	1	2月1日
防災にかかる研修	2	平成31年2月19日
意識改革を促進する研修	1	平成31年2月28日

### 派遣研修（全事協関係研修を除く）※事務局・総務課

研修名	主催者	参加人数	実施年月日
社会福祉法人会計に関する研修	全国社会福祉事業団協議会	1	平成30年7月27日
社会福祉施設経営実務セミナー	独立行政法人福祉医療機構	1	11月30日
広報発信力強化セミナー	全国社会福祉経営者協議会	2	11月5日
会計実務担当者研修	兵庫県社会福祉協議会	2	平成31年1月18日

## 1 1 健康管理及びレクリエーション事業等

### 健康管理

実施年月日	内 容
平成30年 4月23日～平成31年 2月22日	B型肝炎ワクチン接種
平成30年 7月 2日～平成30年 8月24日	夜間勤務職員健康診断 (白寿荘職員は腰痛検査も実施)
平成30年 9月26日・平成30年 9月28日	腰部X線撮影 (直接)
平成30年12月 5日～平成31年 1月25日	胸部X線撮影 (直接)
平成30年11月 1日～平成30年11月14日	インフルエンザ予防ワクチン接種
平成30年12月 5日～平成31年 1月25日	定期健康診断 (白寿荘職員は腰痛検査も実施)

### レクリエーション事業

実施年月日	内 容	人 数	場 所
平成30年11月1日・11月 3日 11月8日・11月10日	秋の親睦企画	169人	サンパレス六甲 ユニバーサル・スタジオ ・ジャパン

## 1 2 施設見学状況

区分	平成 30年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成 31年 1月	2月	3月	合計
受入 人数	人 46	11	9	4	0	2	4	1	0	3	4	0	84

